

No. 23

平成20年11月発行

静岡県老人福祉施設協議会

〒420-0856 静岡市葵区駿府町1-70

静岡県総合社会福祉会館内

TEL 054-653-2311 FAX 054-653-2312

E-mail : sizurosi@vesta.ocn.ne.jp

<http://www.shizu-roshikyo.jp/>

# しづ老施協

**一、来年の介護報酬改定**  
**—報酬アップは絶対条件**

二〇〇〇年に介護保険制度がスタートして三期目が経過しようとしています。この九年間で介護給付費、サービスの供給が急増してきました。特に認知症高齢者や独居、夫婦のみの高齢者が増加、最近では「老老介護」だけでなく「認認介護」と言われるようになります。一方介護労働者不足は一向に解決できていません。この問題をどう解決していくのか、その打開策の一つとして来年四月にある介護報酬改定です。厚生省

**二、介護人材確保対策**  
**—インドネシア看護・介護士二百八**

名が八月七日に来日しました。まだ数年先の話になりますが、日本での国家試験に合格すれば外国人介護士が誕生することになるでしょう。しかし、問題も数多くあることは間違いないと思います。第一の問題は、介護職人員配置基準の人数としてカウントできないことです。折角現場で働く人手として確保できても基準外の人員では事業所としてのメリットはなくなります。また生活習慣的な問題として、言葉の障害がありま

## 巻頭言

### 「負のスパイラル (悪循環)からの脱却」



静岡県老人福祉施設協議会

副会長 栗野裕治

労働省が十月に発表した介護サービス事業者の経営実態調査では、深刻な人手不足の中、介護職確保のために給与を引き上げたことなどにより、特養ホームの収入に対する黒字の割合が一三・六%から三・四%と大幅減、居宅介護支援事業所は利用者の数を五十人から三十五人に制限したことから赤字幅が一七%に拡大するなどほとんどの事業で経営が悪化しました。今後も収入減が続けば、さらに職員給与、待遇面で大きく影響することは間違いない、その結果ご利用者等に対するサービスの質の低下にも繋がっていきます。次期報酬改定では、大幅な報酬アップが絶対条件であり、すべての介護施設、サービス事業所が一致団結し、現場の声を行政へ訴えて行かなければならぬと考えます。

### 三、介護施設待機者どう解消するのか?

厚生労働省は、七月二日の第四期画策定に係わる全国会議で、第四期計画においても「参酌標準」の考え方を変更しないと発表しました。これにより、引き続き、施設・居住系サービスは総量規制が行われます。現在特養ホームを希望する待機者は四十五万人とも言われており、その人達の行き先はどうなってしまうのでしょうか。また施設の老朽化による建て替え問題があります。現在の多床室から全室個室化にすることは、個室料を払えない入居者がでてきます。その問題を解決するためには、すべて個室でなく多床室と個室の混合型施設が必要だと考えます。全国でも混合型を認めている県があり、静岡県当局にたいし柔軟な対応をしてもらえるよう今後も強く求めていかなければならぬと思います。

す。いくら日本語研修を六ヶ月受け話すことができても、記録を取り書くことは大変難しいことだと思います。さらに、コスト面、事業者負担は一人あたり三百五十万円程度かかる訳で資金的余裕のある法人でなければ受入は困難など多くの問題が山積しています。

特集

## 「関東ブロック老人福祉施設研究総会」

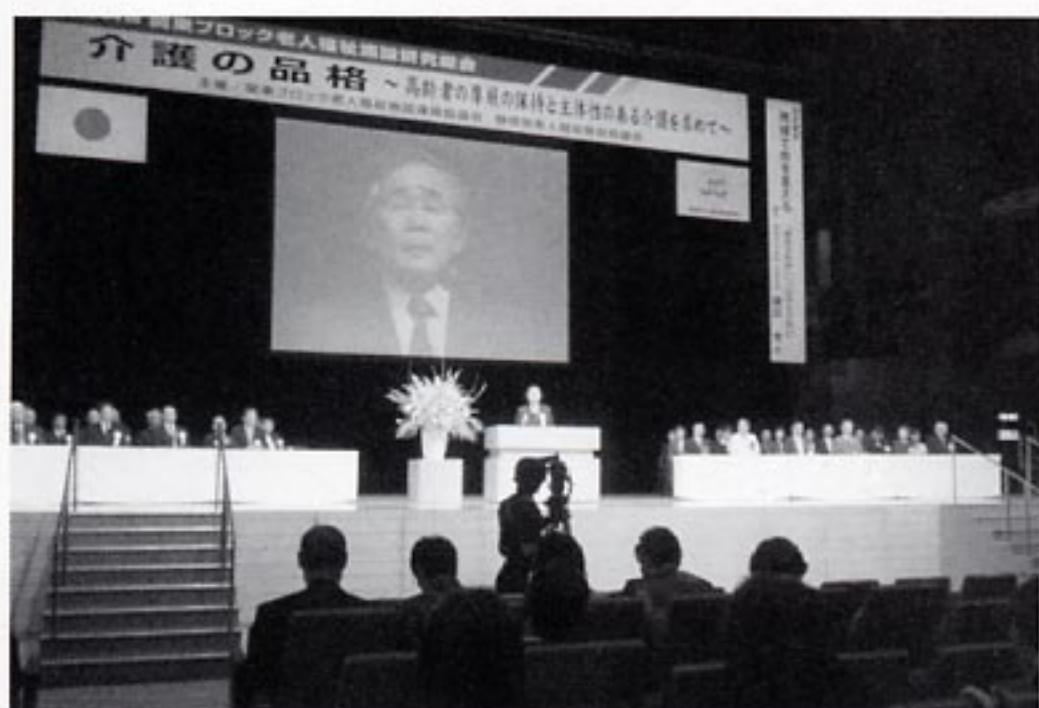
「介護の品格」高齢者の尊厳の保持と主体性ある介護を求めて、グラントシップに千二百人集う

第四十四回関東ブロック老人福祉施設研究総会が、九月三十日（火）、十月一日（水）の両日、静岡市のグラントシップ大ホール、「海」、及び静岡駅周辺のホテルを会場に開催されました。「介護の品格」高齢者の尊厳の保持と主体性ある介護を求めて、大会テーマに、一都十県から千二百人の参加者が集い、各分科会では日頃の研究成果が発表されました。なお、分科会の報告は紙面の関係から、参加希望者の多かつた第二分科会を主として、掲載したことをお断りいたします。

### ☆ 全体会

大会一日目は、全体会が行われ、関東ブロック老人福祉施設連絡協議会田邊信行会長が主催者を代表して挨拶されました。引き続いて静岡県老人福祉施設協議会石川三義会長が主催者県を代表して挨拶を行いました。また、静岡県知事（代理厚生部長・政策局長鈴木美行氏）、静岡市長小嶋善吉氏より来賓祝辞を賜り、静岡県社会福祉協議会会長上島清介（代理）が紹介されました。さらに、平成二十年度社団法人全国老人福祉施設協議会感謝受賞者五百二名の代表者に、全国老人福祉施設協議会中田清会長代行より感謝状が手渡されました。そのほか、全国老人福祉施設協議会中田清会長代行による基調講演「中央情勢報告」が行われ、厳しい介護現場の状況がある中で会員

相互の結束が促されました。その後諏訪中央病院名誉院長鎌田實氏の演題「地域で命を支える」「あきらめない」「なげださない」の講演が行われ大きな励ましを受けました。



関ブロ 田邊信行会長



記念講演 諏訪中央病院名誉院長 鎌田 實 氏



県老施協 石川三義会長

### ☆ 分科会 ・ 第一分科会 テーマ 「今、問われる社会福祉法人の品格」

特別養護老人ホームみくらの里・川島優幸施設長からは、「社会福祉法人の品格 コンプライアンス経営・持続可能な経営とは」と題して、ISO、積極的な財務分析、内部監査等のガバナンス機能など法人の取り組みについての紹介とともに、社会福祉法人としての公益性、公共性を持続していくためには、人材を中心とした経営資源の質の確保と向上が非常に重要であることが述べられた。発表の最後に、介護の仕事を「新しい4K（嬉しき、樂しき、ありがたき、すばらしき）」のあるものにしてたいと今後の抱負で締めくくった。白十字ホーム西岡修ホーム長は、「大都市問題の視点からの社会福祉法人の役割と機能を問う」と題して報告を行なった。東京都高齢者施設福祉部会の意見書をもとに、高齢化率が上昇し年収の低い高齢者が集中する大都市においては、社会的弱者の生活と安全を守る公益の対人サービス提供団体として、人権擁護・自立支援等専門的能力を持つ人材の育成が社会福祉法人の役割であるとの意見が述べられた。介護保険以降、行政はルールの厳格な適用を行なう



アンパイアとしての役割にシフトしたことを見たことを十分認識し、行政依存体质を改善し介護報酬という公共性の高い原資により運営していることを自覚すべきとの実践発表が行なわれた。

早川浩士氏は、社会福祉法人の品格について「人格的価値(徳性)」「CSR」「社会福祉法人の品格形成」という三つの視点から講演を行なった。特に法人組織の社会的責任と貢献についての解説と法人の価値を生み出す人材を育て磨き上げるための向かい方について解説を行なった。法人にとって大切な質の高い人材を育成するためには、「かわいくば五つ教えて三つ褒め、二つ叱ってよき人となす」という二宮尊徳の言葉に表されるような態度が大切であることが解説された。

## ・第二分科会

### テーマ 「認知症ケアの最前線」

#### 茨城県

①社会福祉法人聖朋会特別養護老人ホームサンシャインつくば 副施設長 茨城県認知症介護指導者 坂本雅子氏

「うちの猫、たかがネコ、されどねこの認知症の人の思いもスタッフのモチベーションも大切にできるケアをめざして！」

特別養護老人ホームの副施設長としてのスタッフの育成と茨城県認知症介護指導者の活動から、認知症ケアの質を向上させるためには、スタッフのモチベーションを上げなくてはならない。またそれは、現場のリーダーの育成を抜きにしては成り立たないと話され、現場のケアの変化を目指すとき、ケア職のみでなく、関わる全てのスタッフがケアの理念を共有し、認知症の人の暮らしを理解することが不可欠である。同時にそれを支えるリーダーを育成する為の取り組みから、スタッフのモチベーションを上げることが、認知症の人をしつかりと見つめるケアにつながることがみてきたとも話された。

また、事例としてある在宅利用者の「猫」を大切にしたい思いを、関

わる様々な人たちで共通認識し、生活の場が施設入所にかわっても、これまで関わってきた人たちがそのまま関わり続け、本人の「猫」への思ひは施設でも大切にされ、思いが大切にされると、本人の言葉や言動からほんの少しだけ「不安」が取り除かれたケースを上げ、本人にとつての暮らしとは何かを探り続けることのできるケアスタッフになってきていると発表された。

#### 栃木県

②社会福祉法人報徳会 特別養護老人ホーム丹頂 生活相談員 小日向等氏

認知症のある利用者との関わりと「その人らしい」暮らしを支える取り組み

施設の様子をDVDで撮影した映像がスクリーンに流れ、自立の方が認知症の方の手を引いたり、話しかけたり、一緒に輪投げをやつたりと養護老人ホームならではの様子をみながら、事例の八十七歳の介護度3の女性のケースが発表された。

日々の生活の中での行動の変化を見逃さない為にも良く観察する事。又、傾聴、対話することにより、不安を取り除き、安心感を与える事ができる。行事やゲーム、クラブ活動に参加していく事が認知症の進行予防の一つの方法だと思つてまとと述べた。

夜勤明け勤務の朝、夕の頭と体のバランスが崩れる状態を、発表者自身の体験から話され、生活リズムが

狂っている認知症利用者は、心身のコンディションが悪く、生活を正常化してあげるアシストが必要と施設での取り組みを発表され、誰かの役に立たきました。

これからは施設の職員が地域に出て行き、認知症サポート講座を開き、地域のサポーターを増やしたり、例えばカラオケBOXの職員に出前講座を開いたり、人を待つのではなく

#### 神奈川県

③相模原市養護老人ホーム 生活指導員 濑戸 勝氏 高木美由紀氏 相模原養護老人ホームにおける認知症ケア

施設の様子をDVDで撮影した映像がスクリーンに流れ、自立の方が認知症の方の手を引いたり、話しかけたり、一緒に輪投げをやつたりと養護老人ホームならではの様子をみながら、事例の八十七歳の介護度3の女性のケースが発表された。

日々の生活の中での行動の変化を見逃さない為にも良く観察する事。又、傾聴、対話することにより、不安を取り除き、安心感を与える事ができる。行事やゲーム、クラブ活動に参加していく事が認知症の進行予防の一つの方法だと思つてまとと述べた。

これからは施設の職員が地域に出て行き、認知症サポート講座を開き、地域のサポーターを増やしたり、例えばカラオケBOXの職員に出前講座を開いたり、人を待つのではなく

く、外へ出て行き認知症サポーターを増やすことが、利用者も職員も楽しめることになると話された。

また、介護の仕事は地味、身体介護からみると認知症利用者の介護は地味、見えないものを、どう見えるようにするか、見えないものをどのように共有し、見えないものをあまりだす「気づき」が大事で、センタ一方式を使つた勉強会が地域でも開かれている話から、がむしゃらにがんばる時代を終わりにし、介護ならではの情報を医療にも伝え、無駄な部分をコストダウンし、その分をマンパワーに活かせるよう、表情だけは和らげ、そばにいる人の環境の一部になれるよう、皆の元氣ができるよううに」と結んだ。

続いて二名の実践発表を行なわれました。特別養護老人ホーム「和みの郷」福祉サービス部長須田和枝氏による「個別支援から見えてきた利用者のその人らしさ」、特別養護老人ホーム「豊野清風園」介護主任豊竹康祐氏による「グループケア施設での個別支援について」、最後に特別養護老人ホーム「上総園」園長水野谷繁氏による「ユニットケアにおける施設整備を考える」などの発表が行なされました。発表後の質疑応答では、外出時の対応、集団ケアから個別ケアに移行する方法、グループ分けを行なった場合の職員配置数など多くの質問が出されました。

最後に、森川京子先生からの統括をいただいて締めくくりました。

### ・第三分科会

テーマ「個別支援とは?—支えある喜びを感じて—」

「個別支援とは?—支えある喜びを感じて—」のテーマで、一〇〇一會議室にて百七十名を超える参加者の中で開催されました。

埼玉福祉専門学校講師の森川京子先生をお迎えし「個別ケアについて」の講演をしていただきました。不穩になつた時、感性とリズム、回想録について、マザーテレサの言葉、そして「心が動けば体も軽くなる」などと現場に役に立つ事などを講演していただきました。



### ・第四分科会

テーマ「新たな役割を求めて」

第四分科会では、新たな役割を求めてのテーマのもと、全老施協施設推進委員長清水伸一氏による講演と、養護老人ホーム「万寿園」施設長三神威男氏・軽費老人ホーム「寿楽園」施設長阿部明雄氏・ケアハウス「は



「つらつ浜野」介護主任 笹本龍子氏による実践発表が行なわれました。講演では、養護・軽費をとりまくこれまでの流れや、実例を挙げての発表、今後の課題・展望などの内容について、要所をおさえた資料で解りやすい発表が行なわれました。

実践発表では、施設における取組みや課題・役割などの興味深いお話をありました。また、施設の厳しい現状や、行政(厚生労働省)と現場の考え方の違いについて、行政との実際の話し合いの説明があり、参加者は真剣な面持ちで話しに耳を傾けていました。

質疑応答では、発表者に対しても、生活保護者入所の有無や利用料についての質問があつた他、参加者に対する質問として、金銭管理について意見交換がなされました。

清水伸一氏による講評では、措置に対する意識改革が必要であり、低所得者の対応と地域貢献の重要性について話し、今後の取組みとして希望の持てる施設作り・入所者の尊厳を支えるといった考え方など、見習う点が多い発表であつたとまとめられました。最後に軽費A型の建替えにおける入所者負担(管理費)の問題とそれに伴う特例廃止の問題について質問があり、厚生労働省に提言していくと答えられました。



サービスを提供す側ではどうすれば良かつたのだろうかという議論が起ころ。「サービスをお教える事は出来ない。本人が選択するしかない」「個人の尊厳も大切だが、ホームの規則の方が大切だ」という意見が出てくる。個人の尊厳があつてこその規則であり、規則に生かすべきである。ご家族・ご本人の意見を伺うと、在宅において「何がみえないのか、またそれが見えたら何が出きるのか」を考えるべきである。

#### まとめ

現在の高齢者施設は多機能施設となつていて、都市部ではキーとなる施設があり、機能が働いていく。様々な事例を蓄積し情報をキャッチしながら、どのように公共施設等をカすために、どのように公共施設等とのネットワークをもつて情報をキャッチするかが重要となつてくる。講師の講話の中での介護心中に触れたことに関しての感想と、まとめを掲載させて頂きます。

講師 増田樹郎氏

講話の中で介護心中について触れられた事に関しての感想が述べられた。

この感想に対して更に他の介護心

中や介護現場における状況が説明された。

こういった介護心中が起きた時に、

事業所の垣根を越えたサービスを行なうためには、総合的な施設なら良いが単独施設だと難しいため、これから他施設との連携をとる必要が出て来る。

#### ・第五分科会

テーマ「地域で安心して暮らせるために」

分科会の記録は、DVD一枚に収録したものを提出させて頂くので、

講師の講話の中での介護心中に触れたことに関しての感想と、まとめを掲載させて頂きます。

講師 増田樹郎氏

講話の中で介護心中について触れられた事に関しての感想が述べられ

た。

この感想に対しても、他の介護心中や介護現場における状況が説明された。

事業所の垣根を越えたサービスを行なうためには、総合的な施設なら良いが単独施設だと難しいため、これから他施設との連携をとる必要が出て来る。

#### ・第六分科会

テーマ「意識と知識で危機回避」

鳥海房枝先生

基調講演  
「高齢者施設における感染症対策」「生活の質の保証とリスクマネジメント」

清水坂あじさい荘で実践している事例をより具体的に解り易くご説明していただきました。感染症対策では三原則である①感染源となるものの取扱い、②感染経路の遮断、③入所者の抵抗力の向上を挙げ、特にその中でも感染を広げないことの重要性に着目されています。施設現場で一手技一手洗いを実践するにはどのようにやればよいのか、消毒することより手洗いをすることの大切さ、それに伴うスキンケアの大切さ、排泄用エプロンや二重手袋の着用が感染を広げる可能性があること等、即役立ち大変参考となる内容が盛りだくさんでした。

しないものであつても本人がいやがるものは絶対にしないことが大原則。まず事故は起こつても当然であることを家族に理解してもらい、事故の可能性も含めてその人がその人らしく生活することを家族と共に考えること、常に家族をケアパートナーとして位置づけていくことの重要性を説明していただきました。また事故を職員個人の責任にしないことや、事故が起こった後の対策として職員の労働強化を伴うものは実効性に乏しいことのマネジメント手法は大変印象的でした。



鳥海房江氏

## ●施設のユニーク行事

### 「夏の始まりの合図」

特別養護老人ホーム

富岳一ノ瀬荘



今年も大輪の花が夜空一面に咲き乱れました。当施設では夏に毎年、納涼花火大会を行っています。日頃、利用者が音楽療法として行なっているフラダンス・器楽演奏の発表の場でもあります。

今年は地域・御家族の方含め、約三百人の方に御来場頂き、夏の夜のひと時を皆で盛大に楽しみました。

### 「般若心経・続経」

特別養護老人ホーム燐光



ふじトピアは、平成十三年二月に、長期入所七十床の他に、短期入所二十床、デイサービス、居宅介護、訪問介護、在宅介護支援センターを併設して開設しました。その後、十七年には障害福祉サービス（短期入所）を、十八年四月には在介センターに替えて地域包括支援センターを、同年十一月には隣接地に認知症グループホームを開設し、現在に至っています。

当施設は藤枝駅の北に位置し、駅から車で約二十分の、田畑と葉梨川に囲まれて多くの野鳥を見かけることがあります。一方、徒歩すぐの所にスーパーやドラッグストア、各種商店があり、静寂と便利さを兼ね備えた住みやすい環境となっています。

この施設を運営するのが社会福祉法人「鳳会」で、この名称の由来ですが、中国の伝説のおめでたい鳥「鳳凰」からとりました。「鳳」は雄、「凰」は雌を指し、羽の生物の王であるとされています。宇治平等院の屋上に鳳凰像がありますが、これは現在の一万円札にも描かれていて皆さんにも親しみのある鳥になっています。雌の「鳳」を選んだのは母親のように産み育てるとい

うことで、法人の永きにわたる発展を願い名付けられました。また施設名ですが、藤枝の「ふじ」とユートピア（理想郷）との造語です。福祉にたいする理想に近づけるようにとの思いをこめて、どちらも理事長が命名しました。

当施設は従来型特養ですが、個別介護をめざして平成十五年から、ハード、ソフト面を工夫して、ユニットケアを開始しました。これからも、絶えずチャレンジ精神を持って何事にも取り組んでいきたいと考えています。

法人の理念「おもてなしの気持ちで心のこもった温かいサービスを提供する」にあるように、職員一同、地域の方々との連携を更に強めて、利用者一人ひとりのニーズに対応できるよう努力していきたいと思います。

「心経は、いいね。」と、八年前入所まもないTさんが、しみじみ言つてくれた一言から、般若心経の続経がスタートしました。最初は、有志数名で毎週火曜日に廊下のソファーに座つて経本を目で追いながら読んでいました。ところが、次第にソファーに集まつて来る人が多くなり、今では、みんなの憩いの場である食堂で行っています。そして、時々してくださる、施設長の説法を楽しみにしています。（なぜか、この時間はとても静かになります）



# 現世（うつしよ）

ケアハウス ハーモニーおくの

施設長 武田祐美

こう見えて割と本を読む。ただしジャンルはかなり偏っている。ほぼノンフィクション・エッセイ・コラム。フィクションを読んでいても頭のどこかで「架空」という概念が消えない。ゆえに文章の世界に移入できない、要するに発想力に乏しい。ノンフィクションは無論「実話」である。実際に起こっている・いたこと。内容により様々だが、時に励まされたり、やる気に繋がったりするが、反面辛い現実を突きつけられる事もある。私にとつて愛読は、時として人生の道標的な役割を果たしてくれている気がする。

それでもうひとつ、特に壇ふみさんの書籍から痛感することがある。恥ずかしながら初めて目にする言葉（例えば静謐や馥郁など等）が多くある。また聞いたことがある程度の言葉もある。『ためつすがめつ』や『みめ麗しい』など、昔は相手を思いやつた微妙な言い回しや、趣のある言葉が多かつたのだろう。しかし最近



## 十一月十一日(火)介護の日 キャンペーンについて

本年度より制定されました「介護の日」。県老施協としまして、各支部別に

東部……三島駅 中部……静岡駅  
西部……浜松駅構内又は近辺で  
街頭キャンペーンを実施いたします。

各支部長さんより、協力要請があつた場合はできる限り、協力方お願ひ致します。

事務局より、当日までに各支部長あてに、のぼり旗、テツシュペーパー、メモ用紙等送付致します。

また、各施設においても独自の催し物を実施いたします。

### 五ページよりつづく

続いて三名の実践発表が行われました。介護福祉施設「恵信ロジエ」看護長井上英子様による「リスク感染」向上を目指して「つばめ福祉会専務理事高橋是司様による「つばめ福祉会における利用者満足の視点」特別養護老人ホーム「夢見ヶ崎」施設長松尾和彦様による「川崎市における身体拘束廃止推進の経過と今後の展開」などの発表が行われました。



特養夢見ヶ崎 松尾和彦 氏



つばめ福祉会 高橋是司 氏



恵信ロジエ 井上英子 氏

# 活動報告

## 老施協

★ 第四十四回関東ブロック老人福祉施設研究総会 二十年九月三十日、十月一日、グランシップ他三会場にて開催、約千二百名の参加でした。

★ 職員研修会 二十年九月五日、静岡商工会議所において、特別養護老人ホーム「ラポール藤沢」阿部充宏施設長を講師に招き、「施設ケアマネジメントの理念と手法」と題する講演会を開催しました。参加者は百三十二名でした。

## 在宅事業部会

★ 理事会 二十年六月二十四日、研修計画等について協議しました。

## 21世紀委員会

★ 理事会 二十年六月二十四日、県総合社会福祉会館において、二十年度会長表彰の受賞者及び第四十四回関東ブロック老人福祉施設研究総会並びに老施協を取り巻く諸課題への取り組みについて協議しました。

★ 理事会 二十年十月七日、県総合社会福祉会館において、静岡県への要望事項及び総選挙への対応について協議しました。

★ 部会長・委員長合同会議 二十年六月二十四日、県総合社会福祉会館において、研修事業の調整及び諸課題への取り組みについて協議しました。

★ 管理者研修会 二十年八月二十日、グラントップにおいて緊急県民フォーラムを開催しました。

内容は「介護の担い手・今そして明日」をテーマに佐野龍司静岡厚生部介護保険室長、樺葉隆行静岡新潟社編集局次長兼論説委員、兼子邦子東海福祉専門学校長、前田方正県介護福祉会長、石川三義県老施協会長の五氏によるパネルディスカッションで、参加者は九十六名でした。

## 特養部会

★ 理事会 二十年七月四日、県総合社会福祉会館において、研修計画、調査研究計画について協議しました。

## 研修委員会

★ 二十年七月四日、県総合社会福祉会館において、委員及び正副委員長

の委嘱並びに二十年度事業計画について協議しました。

## 広報委員会

★ 二十年六月十一日、会員施設長にH.P.に関するアンケート依頼。

★ 二十年七月十六日、県総合社会福祉会館において、H.P.に関するアンケート調査結果について及び調査結果に基づく協議についてを協議しました。

★ 二十年七月三十日、H.P.アンケート結果について、一覧表をH.P.にUPしました。

★ 二十年六月十一日、県総合社会福

祉会館において、ポスターセッショ

ン、J.A.L接客マナー研修、施設間

交流研修、広報研究について協議しました。

★ 二十年七月二十九日、静岡音楽館AOIにおいて、川崎美紀J.A.Lアカデミー接遇インストラクターを講師に接客マナー研修会を開催、百五十名の参加でした。

★ 二十年九月十一日、県総合社会福祉会館において、ポスターセッション、施設間交流研修事業について協議しました。

## 企画経営委員会

★ 二十年六月五日、県総合社会福祉会館において、委員及び正副委員長の委嘱並びに二十年度事業計画、関東ブロック老人福祉施設研究総会の開催について協議しました。

★ 二十年八月十八日、県総合社会福祉会館において、第十回実行委員会、総務、全体会、分科会小委員会を開催し、参加申し込み状況、前回以降の取り組み状況の報告とそれぞれ小委員会毎に協議しました。

★ 二十年八月十八日、県総合社会福祉会館において、第十一回実行委員会、総務、全体会、分科会小委員会を開催し、参加申し込み状況、前回以降の取り組み状況の報告とそれぞれ小委員会毎に協議しました。

★ 二十年九月二十九日、グランシップにおいて、第十一回実行委員会を開催し、研究総会の運営（「スタッフ必携」説明）について、協力員チーフへの説明会を行い会場確認も行いました。

編集後記

● 納棺師を主人公とした映画「おくりびと」。人の死に立ち会うことの多い私たちの仕事とどこか共通したものがあり、故人や遺族の思いを大切に、そして謙虚に向き合つていかなくてはならない、そんなメッセージを受け取りました。宜しければ是非ご覧下さい。  
 (T・M)

● 第四十四回関ブロ静岡大会も無事終了しました。

● 第四十四回関ブロ静岡大会も無事終了しました。

● 本大会の成功は実行委員長を中心とした多くの関係者の努力の結果であることは言うまでもありませんが、裏方である事務局員の力が大であった事をここに申し上げたい。  
 微力ですが企画運営に携われた事に感謝いたします。  
 関係者の皆様お疲れ様でした。  
 (H・K)

● ある日の新聞の読者欄です。どんな折り込み広告でも、毎日、丹念に読んでいる老親に「そんなの見てどうするの」と尋ねると「私一人ぐらいい見えてやらないと苦労（？）して広告を作った人に気の毒でしょ」「！」  
 しづ老施協の編集に僅かでも関わっている者として全く身につまされる話です。会員の皆さん、ぜひ読んでくださいね。

(M・K)